（別紙4）　　平成　26　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390800102		
法人名	社会福祉法人　菊寿会		
事業所名	グループホーム　明日葉		
所在地	熊本県山鹿市菊鹿町長529番地		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	平成26年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑豊かな山間地域に、木造建ての温かい雰囲気と「地中熱」を取り入れた居心地のよい住まい造りから出来ている施設である。利用者も地域や地域住民との交流が定着し、地域の中で住み慣れた生活を送られている。利用者のご家族とも信頼関係が深まり、ご利用者と一緒に楽しまれるような計画を立て実施している。また、ご利用者がゆったりと楽しく暮らして頂けるような雰囲気づくりを心掛けて支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

入居者と職員の笑い声や、「ここのご飯はうまか～！」「何でん楽しかですもん！」と、発せられる一言に、“今できること”に注視し、役割や残存能力を生かしたケアの実践であることが確認され、職員の一人ひとりを支えたいとする温かな思いが表れている。地元イベント収穫祭でホームの為に出品物を競り落とし届けてくれる方や、事業所まで続く山道の樹木が、安全の妨げにならないか常に気を配ってくださるなど、地域の人々に支えられていることに代表者はじめ職員は感謝を語っており、今後もホームに出来得る取り組みにより、更に信頼関係を構築したいとしている。高齢になった入居者にとって新年を迎えるという事は、本人だけではなく家族にとっても何よりの事であり、毎年、正月おせちもホームで講習会を開きその日を迎えている。今後も職員の持つ特技やチームワークの活かされた『明日葉』の変わらぬ取り組みに大いに期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名:グループホーム　明日葉

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は母体の理念と明日葉の理念を明日葉ホール内に掲示している。また、明日葉の理念は、開設当時より、スタッフのロッカーに貼り、この理念に基づきそれに添った支援を行っている。	基本理念の中で地域と共に生き、地域と共に歩み…とする地域密着型としての姿勢を掲げ、基本方針4項目をケア規範として具現化している。自立支援の一環として残存能力の発揮や地域サロンに出向きながら認知症ケア啓発に努める等地域福祉の向上も担うホームである。職員個々がケア中心から脱却し、楽しみのある生活を支援する姿勢が入居者の輝いた生活として生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月のサロンに参加し、二か月に一回は明日葉に来訪され、交流会を行っている。地区の美化作業(夏場月1回)地域の収穫祭にも手作りのお菓子をバザーに出品し収益は地域に活用して頂くよう寄付している。地域の敬老式典にも参加した。	母体の裏手に立地しており、民家は少ないものの開設時から“地域と共に”とする意識を持った取り組みが更に地域との関係を強固なものとしている。定例化した地域サロン参加の他、入居者の生活圏であった地区のサロン・敬老会式典参加や収穫祭等多岐に亘って交流している。また、地域高齢者の訪問やボランティアとの炊き出し訓練等も行っている。近隣からの野菜の差入れや住民参加による誕生会の開催、ホーム側も美化作業等に参加する等地域とともにあるホームである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の方の行動やその支援について説明している。また、中学校で、認知症の症状や対応の仕方について話をしている。近隣地域へ、リズム体操や口腔体操を紹介することを計画中である。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて意見や助言を頂いたら、スタッフに報告し利用者が過ごしやすい環境に繋げている。地域の方の意見を多く取り入れる為に1月より民生委員様にも参加して頂いている。	2ヵ月毎に開催する運営推進会議は活動・研修等報告をもとにした意見交換を行っている。社協や区長・市の保健師・地域包括・認知症サポーター及び地域の民生委員が輪番で参加される等メンバーも充実している。この会議の中での意見を受け、民生委員定例会参加により啓発の一環としたり、運営推進会議終了後に避難訓練を組み入れる等工夫しており、更にこの会議での情報を次のステップに反映させる意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市開催の説明会に参加して、市の意見や悩み等を相談しケアプランを提出し助言を頂いている。（介護支援専門員も参加）	市主催の認知症サポート研修やコーディネーター研修への参加、人権学習等に継続した参加が市の担当者との関係を一層深めている。市の介護保険課へアセスメント・ケアプラン等一式を提出し、アドバイスを得たり、民生委員の研修の場としての提供や市開催の説明会等に参加し、行政の意見等を収集している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設外研修に参加の機会がなかったが、絶対に拘束をしないケアに取り組んでいる。特に、言葉による抑制には、スタッフ全員で日々注意をはらっている。毎月、本体身体抑制廃止委員会にて「絶対拘束はしない」を各部署と確認している。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、全体研修の中での勉強会、毎月本体の身体抑制廃止委員会での検討会に参加しており、身体拘束の弊害を全員が正しく認識している。入居者個々の外出傾向を把握し個別に対応しており、不穏時対策として家族の協力を得ながら出来る事（干し柿作り等）を支援している。玄関等危険回避にセンサーはあるものの開錠し自由な生活環境としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフのストレスにより、虐待が起きないように日々スタッフの健康状態や精神面に悩みがないか、スタッフの心のケアに心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に後見人制度を受けられている方が1名。本年度は、研修の機会がなかった為、今後研修があれば、参加予定である。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と契約書について説明を行い質問を受けているが、説明後にも再度、疑問がないか時間を取り聞いている。納得された事を確認して同意をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、7月にご家族と意見交換会を行い、日頃のケアの在り方等を説明している。その後担当者と個別に意見交換会を行った。特に意見は聞かれなかったが、会話の中から利用者の方々の穏やかな暮らしを望まれている事が感じられる。	入居者には日々の関わりの中で要望等を引き出している。家族へは意見箱の他、訪問時の現状報告等ホーム側から情報を発信し、思いや要望等を聞きとりしている。運営推進会議や家族会時に担当職員との意見交換を行い、家族の“笑顔が戻り自然体での暮らしに感謝の言葉”や“行事に参加したいので早めの連絡を”等が職員のモチベーションやサービス向上として生かされている。家族と職員との信頼関係が構築し、管理者へ直接の申し出もあり、苦情らしき事案はリスク委員会で検討することとして全職員が共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全スタッフの会議で意見や提案を聞いているが緊急な場合は、ミニ会議を行い、申し送り簿により全スタッフに報告し実践に活かしている。	管理者は職員とのコミュニケーションを図り、職員同士の意思疎通も良く、日々申し送りノートを介して情報を共有している。母体法人の朝礼参加は、相互理解を深めると共に職員のトレーニングの場としている。毎月のスタッフ会議により職員の意見や要望を収集し、緊急性や人事に関する事案は幹部会で検討する等合議により決定している。また、ホームの問題はホーム長を通じて管理者への相談や上申する体制である。年2回の個別面接も行っている。	
12		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を取り入れており、年2回(上期、下期)個別面接を行い、本人の意欲(目標)の達成感等を聞いたり、助言を行っている。また、業務がスムーズにいくように就業時間の見直しを行った。		
13		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設の内部研修には、毎月参加している。外部研修では、特に看取り介護とレクリエーションに参加し、入居者の状態にあった研修に参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	菊池、山鹿ブロックグループホーム研修会に参加し、意見交換などで情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本年度は、新規利用者が4名。新規利用者を受け入れる場合は、ご家族やケアマネージャー、利用されていたサービス事業所より情報を得る事で入所時より、不安なく生活して頂けるようにケアの統一を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時に困っておられることや不安な事を聞いて、できるだけ解消できるように支援の提案を行い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の段階で、本人及びご家族が一番必要としていることをスタッフの共通支援とし必要なら、以前利用していたデイサービスを訪問したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力や身体機能に応じて、掃除　洗濯物干し　洗濯物たたみ　料理の下ごしらえ等、できる事をしてもらう事により共同生活の一員としての支援し合う関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、帰省に協力して頂きながら、ご家族との絆を保ちつつ、全員での外出や行事の時は、ご家族にも声掛けして参加協力をお願いしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のサロンに定期的に参加している為に、馴染みの関係が深まってきた。又、自分の馴染みの地域に故郷訪問やドライブに出かける事により喜びが見えて来た。	利用者の生活圏であった地域のサロンへの継続した参加や地元高齢者との交流、正月の帰省や墓参、初詣や神社参拝、故郷訪問等家族の協力を得ながら支援している。畑作業や野菜の選別等昔から築いてきた杵を発揮させたり、花まつりや山鹿灯篭保存会による灯篭踊り見物等この地で継承される祭りも堪能される等これまでの馴染みの関係を断ち切らないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の意気投合も見られる反面トラブルが起きる時もある。その為に個別ケアを重視して、母体に遊びに行ったり、散策やその人の行きたいところに出かけたり、全員で楽しめるゲームを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去されてもご家族と連絡をとり、利用者の面会を行っている。又、ご家族より相談があれば、相談や支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人の思いや希望を聞き、出来るだけ思いに添った支援を行っている(個別ケア)。しかし、理解が低下されている利用者の思いを聞くことが困難な場合は、その方の立場に立った支援に心がけている。	アセスメントの中での望む暮らしの聞き取りや、日々の寄り添いのケアの中で思いを引き出している。「今日は外に行きたい・今日は遊びに行く日和…」等何気ない会話にも耳を傾け、機動力を発揮し思いを実現している。認知症の進行も見られる状況に、その時々の背景や真意を探りながら本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族に聞いたり、担当ケアマネージャーや地域の方に聞て情報収集を行っているものの、個人情報になる為に以前より情報を得る事が難しくなった。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、利用者の暮らしが安定しており、スタッフも心身状態等の把握が出来ている為に本人の有する機能に応じた支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎に担当者がおり、アセスメントを実施し、毎月カンファレンスを行っている。又、更新時においては、ご家族及び担当スタッフとモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。状態の変化があった場合は支援経過の見直しを行っている。	担当職員によるアセスメントや意見をもとに毎月ケース会議を開催し、変更すべき事項は朱書きにより追記をしている。また、介護計画担当者は日々の記録を基に特記事項等を支援経過に落とし込み、毎月のカンファレンスに反映させている。入退院時の見直しや介護保険の有効期間を定期見直しの期間としている。毎月家族への報告時に家族の要望等を聞き取りする他、家族会時や状態変化時等に家族との担当者会議を開催しており、家族の意向が反映された具体的且つ個別的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケア記録に生活の記録を行い、特に申し送りのある場合には、日勤者⇔夜勤者の申し送り簿により、情報交換を行っている。又、職員同士の申し送り簿により、更に利用者の支援や介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中の利用者への面会やそのご家族との連絡や要望等で施設ができる範囲であれば柔軟な対応ができる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアや認知症サポータの協力を得て、地域に出かけ自然を満喫している。地域の人と声掛け合う事で、暮らしの豊かさに繋がるような支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を重視し、ご家族の協力を得ながら受診を行っている。又、ご家族が遠方の場合はスタッフが医療機関へ健康状態や日々の暮らしについて情報を提供している。受診が困難な場合は、往診を依頼して健康管理に努めている。	在宅時やこれまでの施設利用先でのかかりつけ医など本人・家族の希望を確認しているが、現在は殆どの方が協力医へ移行されている。定期受診には家族での対応やホームで同行した後家族への報告など個々に応じた医療支援である。協力医院の中に在宅医担当の看護職員がいることや、本体施設往診時には、医師がホームへ立ち寄り入居者の状態を診てもらえることは心強いと語っている。職員は日々の関わりで入居者の些細な変化を見逃さないようにしており、医療機関退院後、褥瘡治療が必要な状態の方に食事栄養や小まめな処置で完治に繋がった例もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック表及び検温板により、状態の変化がわかるようにしている。異常が見られた時は、主治医に相談し指示を受けたり、隣接の母体看護師に相談　協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、施設より搬送し、本人及びご家族が安心されるように情報を提供する。又、面会を行い利用者の不安を出来るだけ最小限になるよう心掛けている。又、医療機関より情報を得て、ご家族とも相談を行いお互いの関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りに対しては、医療を必要とする場合は難しいが、老衰の場合は受け入れが可能であり、本人の意志やご家族の考えを充分に検討し支援を行っていく方針がある。	継続した医療支援が必要でなければ、本体施設で看取り経験のある職員もいることから可能な限り支援をしていくこととしている。また、外部研修への参加や法人・ホーム内でも摂食嚥下や口腔ケア研修等など入居者を支える研修会が数多く企画されている。この他「寄り添う看取り」という冊子を家族にも配布し、最終の場面を如何に支えるかや家族の役割などを共有している。	今年度、職員と多くの思い出を作られた入居者が、可能な限りホームで支援され、最終的に医療機関で亡くなられた事例もある。今後はあらゆる場面を想定し、本人・家族の思いに応える終末期を支援するために、『意思確認者』の必要性を計画作成担当者も語っており、今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体研修等で定期的な訓練は行いながら、日々のケアの中ではベテラン介護士の指導を受けている。緊急の場合は、母体看護師の協力を得る事が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成25年12月に昼間想定で避難訓練を行い、本年は、11月に夜間想定の訓練を行う予定である。11月2日の地区収穫祭で災害避難訓練の協力のお願いを行う。	年2回、昼・夜想定の訓練を実施しており、職員は日頃から防災意識を持って安全確認を行っている。１１月に開催された地区の収穫祭に参加した際は、代表者より日頃の感謝と災害避難訓練の協力を依頼しており、本体施設は福祉避難所となるなど協力関係が構築している。真空の備蓄食やホームでも非常食としてインスタント食品や冷凍ご飯などを準備し、「非常食の日」に食している。また、避難スロープを完成させており、ホーム長は、更に洗濯機を火元とした訓練の必要性を語っている。	地元消防団による年末夜警では、ホームにも声をかけられており、昔ながらの地域の安全管理が確認された。近隣に民家がなく有事の際、地域の協力に時間を要することから、火元の確認等継続した取り組みに期待される。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活のケアの中で、個人のプライバシーを尊重する言葉かけを行っているが、耳の遠い利用者に少し声が大きくなっている事があるので、スタッフ同士で注意しあっている。一人ひとりを尊重できるように心がけている。	入居者一人ひとりを尊重した支援を心がけ、呼称は苗字で対応している。また、職員間についても、下の名や愛称で呼ぶことは入居者に失礼にあたるとし同様苗字で呼び合っている。接遇や個人情報・守秘義務の徹底について、研修会で共有しており、代表者もホームを訪れた際、気になる点があればその都度指導を行っている。ホーム長は声のトーンなど気になることがあれば、お互いに注意し合う関係であるが、注意する側の声も大きくなりがちな点があると語っている。	ホーム内は職員と入居者、職員同士の信頼関係が構築され、明るい日常が入居者を支えている。場面によっては職員の声のトーンが不快やその場の雰囲気を壊すことがないか検討する等、今後も意識を持って取り組んでいただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや自己決定ができ易いようにわかり易く説明しているが、理解力の低下がある利用者に対しても思いが出やすいように言葉かけを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を把握して、出来るだけその人の希望に添えるように支援している。（台所の手伝いや荘外、母体への散歩など）		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面を行い、一緒に身だしなみを整えている。外出や行事の時はお化粧や洋服もおしゃれをして頂いている。普段と違う為に喜びの笑顔が見られる。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握しており、日々の料理の材料に取り入れている。又、野菜の皮むきやお茶碗、お盆拭きをお願いしている。	地元の食材や家族の協力による菜園で収穫された野菜が並ぶ料理は、食堂だけでなく、季節やメニューによっては、ホームや法人の庭先で花を眺めながら食事支援が行われている。食材切りや味の評価、玉ねぎを保存する準備など食への関わりを支援し、職員も同じ物を一緒に摂っている。入居者の「味の良かな～！」の一言がホームの楽しい食事に満足されていることを物語っていた。おせち料理の内部研修実施や、正月餅はぜんざいやあられへの利用、ニッケの葉を香り付けに使った蒸し饅頭など、職員の工夫や思いは明日葉の大きな特徴である。	季節感を取り入れ多くの食材を使った家庭的な献立や手作りおやつなど、毎日職員の心がこもった料理が提供されている。また、法人栄養士のアドバイスを受けており、この取り組みを家族にも是非発信していただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については献立のバランスを考えながら利用者の希望を多くとり入れている。カロリー計算は、年に1回、母体の管理栄養士にお願いして振り返っている。嚥下障害の方の形態にも心がけて提供している。（とろみクリアやミキサーゲル使用）		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に口腔体操を行い食事がスムーズに摂れるように行っている。又、食後の口腔ケアの中で異常発見に努めている。異常があればご家族に相談して、受診または往診を依頼している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。トイレでの自立に向けて、出来るだけ本人の機能を引き出すような声掛けを行っている。（排泄用パットも個々にあった物を準備している）	可能な限り本人の持つ機能を引き出すような声かけや、起立が困難な方へも職員のサポートにより、基本的にトイレでの排泄を支援している。トイレ内は清潔を心がけ、掃除や小まめな確認によりいつでも気持ちよく使用できるよう努めている。排泄用品については機能性や家族の負担軽減にも配慮しながら、検討が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理の中に食物繊維（さつま芋、ごぼう、麦等）を多く取り入れ便秘予防に心がけている。又、乳製品、果物、青汁の提供も多い。運動として、散策も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、午後に実施。本人の希望があれば毎日でも入浴可能。（健康状態を見ながら）1対1の入浴でゆっくりとした入浴を実施している。夏場は水虫対策として、毎日足浴を実施している。（5月　菖蒲湯、12月　ゆず湯）	今年浴室の戸が広く改修されたことで、車椅子の出入りもスムーズになり、職員の負担も軽減されている。入居者は明るい浴室で夏場は外を眺めながら、毎日や週2回など希望に応じ入浴を楽しんでいる。また、オリーブ入浴剤の使用や5月の3連休中は、菖蒲湯を準備し、その由来が説明されている。入居者の重度化により、法人の特浴やシャワチェアーも検討されたこともあるが、職員は可能な限り家庭的なホームのでの入浴にこだわり支援されている。	昨年の評価結果の改善として、脱衣所内の収納棚のカーテンは設置されスッキリとしたスペースになっている。また、入口のドアも広く改修され、車椅子利用者の安全にも繋がったことを家族へも報告することも必要と思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	建物自体が地中熱を利用しており、居室も自然な空調の為に、昼夜過ごしやすい環境である。本人が休みたいときは、いつでも休む事ができる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報及び内容については、全スタッフが把握しており、臨時薬がある場合でも個々の体温板や申し送り簿に記載し、間違いが起こらないように支援している。又、臨時薬を投与した後は、病状の変化等にもスタッフ全員が確認に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技、思いを日々の生活に活かせるように支援している。現在は、テーブル拭きや洗濯物（干し、取り入れ、たたみ、収納）掃除等をお手伝いされている。又、朝食前には、神様参りする事を日課にされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	何時でも本人の希望に添えるようにしているが日々の外出は短時間（買い物等）が主である。又、行事による外出はご家族やボランティアの協力を得て外出している。	法人敷地内は季節の花や緑の樹木を眺めながら安全に散歩を楽しめる環境であり、車イス利用の方も一緒に外出の機会が持たれれている。桜やコスモス、菊人形や紅葉見学をはじめ、芋ほりや地域イベントへの参加など家族やボランティアの協力も得ながら多くの外出が支援されている。春の交通安全キャンペーンでは、ホーム代表として沿道でのマスコット配布に参加された方もおられる。また、雨の時期の外出は遠のきがちであるが、梅雨の合間を見計らい外出するなど、入居者の笑顔や満足に努めたいとする職員の思いが伝わって来る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠方のご家族が多い為、殆どの利用者より、小遣い程度の現金を預かっている。買い物や活動で出かけた時など、本人と一緒に支払を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ご家族に健康状態や生活の状況及び、お知らせを書いて送付してる。又、利用者が書かれた物をお手紙に同封している。電話は、希望時に取り次ぎを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からホールの空間にお花を飾ったり、植物を置いて利用者の精神面の安定に心がけている。また、オルゴール曲をかけたり、録画による「こころの歌」を聞いて頂く事により、心豊かに過ごして頂く工夫をしている。	入居者と一緒に野菜作りやガーデニングが季節ごとに支援されており、入居者の日常を更に楽しみなものにしている。ウッドデッキでは、収穫した玉ねぎの選別や紐でくくる準備など、「出来上がったばいた！！」「昔は、ようしよったなあ～」など、活動の様子が写真付きで広報誌に紹介されている。ホーム周辺の自然環境にも劣らない季節感や穏やかな時間が過ごせる空間が作られており、細やかな掃除が更に居心地の良さに繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下、ベランダ等に椅子を設置して、いつでも過ごし易い空間を心がけている。その時にさりげなく声掛けしたりして寄り添い、本人の気持ちを聞いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋に自分の馴染みの家具やご家族の写真を飾ったりし好きなお花を置くことにより、居心地よく過ごせるように心がけている。特に自宅のお花を生ける事により、我が家に居るような気分を味わって頂けるような工夫をしている。	持ち込みは自由であり、昔馴染みの品々があると落ち着かれることを伝えており、どの居室からも一人ひとりのこれまでや、家族の思いが伝わってくる。日々の衣類管理はホームで行っているが、季節に応じた寝具や衣替えについては、毎月の手紙の中に一筆記しており、面会を兼ねて家族の協力を依頼している。掃き出し窓の部屋は開放感もあり、入居者の寛ぎの良さに繋がっており、外出傾向の方には安全確認に努めながらも自由な活動をサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の名札やお風呂、トイレなどに表札をかけてわかり易い言葉で表示している。又、廊下やホールには危険になるような備品は置かないようにして、リスクの回避を図っている。		